

授業科目名	在宅看護学実習(2300410)		
時間割名	在宅看護学実習(70214)		
時間割担当	安藤 邑恵		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	集中		

授業の目標・概要

疾患や障害を持ちながら在宅で生活する療養者とその家族の健康問題や生活課題を総合的アセスメントし、対象者の個性をいかした在宅看護の展開ができるようになる。在宅療養者とその家族の体験から家族介護の意味を理解し、在宅ケアの向上を図るための実践を行う。地域における在宅看護や訪問看護に関わる法律、制度、関係機関、関係職種との連携についてその実際を理解し、在宅ケアシステムとそのチームの一員として看護の専門性や役割について考えることができる。

学習の到達目標

目的：健康問題、生活課題を持って在宅で生活する療養者とその家族を全人的に理解し、QOLの維持・向上をめざし、対象者を総合的にアセスメントし、在宅看護の展開ができる。対象者の個性をいかし、自立支援のための基本的な在宅看護の知識・技術・態度を身につける。また、訪問看護ステーションを拠点に保健・医療・福祉との連携や行政・地域等の医療・在宅看護支援システム、ケアマネジメント等ケアシステムの役割を学ぶ。

目標：1) 対象者の一日の生活の様子や療養環境がわかる。2) 慢性的疾病や障害を持ちながら在宅で生活する療養者とその家族の医療ニーズや生活ニーズを総合的にとらえ、看護の展開ができる。3) 訪問看護活動を通して、在宅看護の実践に伴う看護の知識・技術・態度を学ぶ。4) 在宅療養を支える他職種との連携の実際を知り、社会資源や制度、在宅ケアシステムの活用方法が理解できる。

授業方法・形式

訪問看護ステーションを実習場とし、訪問看護師の指導のもとで看護過程を展開しながら看護実践を学ぶ。
参加型実習。同行訪問。

授業計画

- 事前学習：授業資料・テキストの復習
- 1) 全体オリエンテーション 2) 実習場別オリエンテーション
- 実習1～9日目の午前中は訪問看護師と同行訪問し看護実践に参加する。
- 1日目：訪問看護ステーションの概要やステーションの運営・管理の実際について管理者から説明を受ける。訪問看護事例の紹介・決定。
- 2日目～3日目：訪問看護事例の記録、継続訪問看護事例の情報収集・アセスメント、関連図ができる。
- 4日目：訪問看護事例の記録、継続訪問看護事例のアセスメント・関連図から看護問題・問題の優先順を決定し看護目標を具体的援助計画の立案ができる。
- 5日目：継続訪問看護事例の看護診断、実際の訪問看護体験から、教員・指導者等の参加のもとに実習カンファンスを行い理解を深める。
- 6日目～9日目：訪問看護師とともにケアに参加しながら継続訪問看護事例のケアを実践し、評価を行い、看護計画を修正する。在宅ケアとしての訪問看護の意義や関係機関・職種との連携、地域の社会資源等の活用について理解を深める。
- 10日目：学内で継続訪問看護事例の看護実践のまとめとし事例報告会を行い、療養者やその家族への看護について総合的に理解を深め、グループでの共有学習をする。在宅看護実習のまとめおよび実習記録を提出する。

成績評価の基準

- 単位評価の資格 規定の実習日数を出席していること。
- 実習記録は課題全般を評価対象とする。
 - 看護計画と実施リポート
 - 日々の振り返りリポート
 - 領域別評価表
 - 看護技術経験録
- その他 訪問先での態度・言葉遣い

授業時間外の課題

- 療養者の病気の経緯や病態生理（病気の成り行き）を現象と併せて復習する。
- 看護師国家試験の出題基準と照合しながら重要事項を確認・ふくしゅうする。
- これまでの学習履歴を繰り返し、自分の知識を確かなものにしていく。
- 機会をとらえてメディアでの医療・看護などの最新情報も入手する。

メッセージ

訪問看護ステーションでの実習では、療養者宅に訪問することになります。見知らぬ家族や家庭環境にはじめて足を踏み入れ適応していくとともに、療養者や家族へ提供される訪問看護の実際を学ぶ機会を最大限に活かせるように、事前に十分な準備を行ってください。また、療養者・家族が期待を込めて初対面の学生を自宅に迎え入れてくれることを理解した上で、実習に協力する療養者・家族から見て学習意欲や真摯な姿勢が伝わるような態度や身だしなみを整えましょう。

教材・教科書

教科書：秋山正子ほか執筆、在宅看護論 医学書院

参考書

これまでに学習したテキスト、参考書、資料など。
また、必要に応じて適宜紹介する。